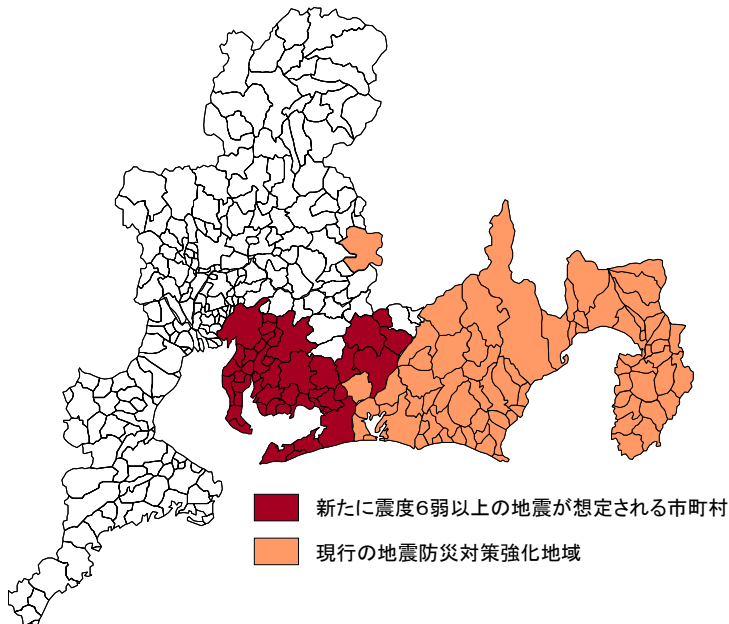


安全・環境

中部地域においては、都市型水害や地震等の災害に強い安全なまちづくりが求められています。
 環境問題については、例えば伊勢湾の水質改善に努力していますが、他の湾に比べると汚濁負荷濃度が高い現状です。
 ごみ問題についても、中部の各県ともに再利用や減量化に取り組んでいますが、さらなる減量や取り組みが求められています。

都市型水害に脆弱な中部の都市

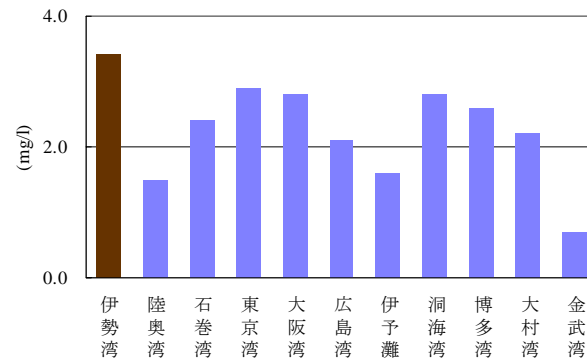
東海地震で震度6弱以上が想定される中部の市町村



資料) 中央防災会議資料

汚濁負荷濃度が高い伊勢湾

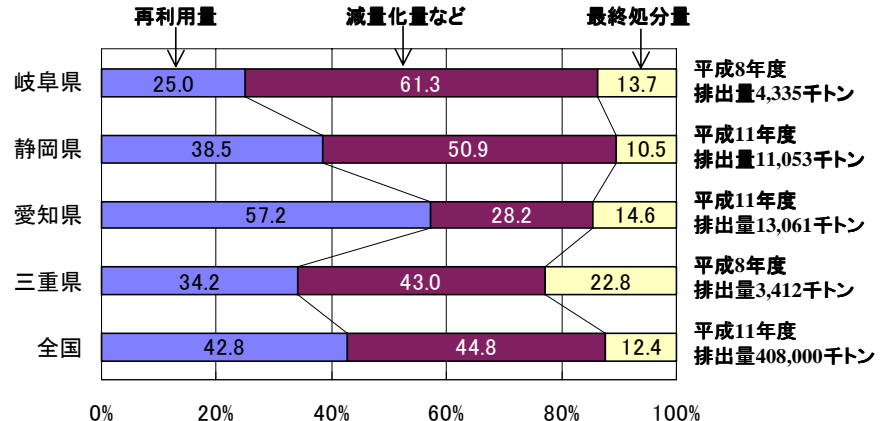
【主要湾における汚濁負荷濃度】



注) 値は平成9年度のCOD年度平均値。
 COD: 化学的酸素要求量(水質の有機汚濁を測る代表的指標)。
 資料) 環境庁「平成11年度環境白書」より抜粋

再利用や減量化が求められる産業廃棄物

【産業廃棄物の排出量に対する再利用等の割合】



注) 減量化量など: 焼却など中間処理により減量された量 + 保管などその他の量。

資料) 「産業廃棄物実態調査」各県の最新調査

●水害

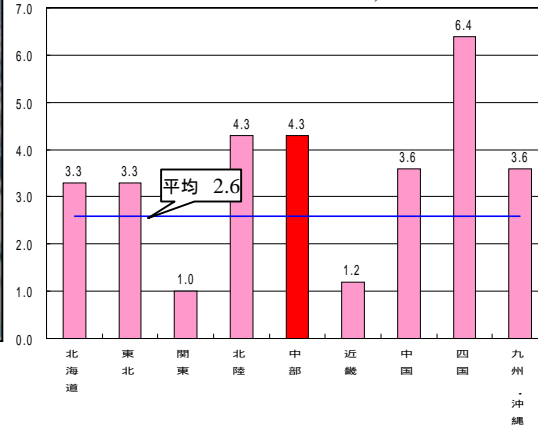
中部地方は、その地形・気象特性から水害を受けやすく、資産の集中等により、ひとたび浸水した場合の被害は増大しています。



新川周辺の浸水状況

住民一人当たり水害被害ブロック別比較 (H3~H12)

(関東を1.0とした倍率)



●土砂災害

全国の約9割の市町村が土砂災害の危険と隣り合わせであり、中部地方も例外ではありません。



大谷崩れ

平成2年~平成11年 水害・土砂災害の発生状況

- 5ヶ年以上 水害・土砂災害の発生
- 3~4ヶ年 水害・土砂災害の発生
- 1~2ヶ年 水害・土砂災害の発生
- 0ヶ年 水害・土砂災害の発生



●渇水

中部地方は全国でも有数の渇水地帯をかかえており、近年でも平成6年、平成7年、平成12年、平成13年と渇水が生じています。



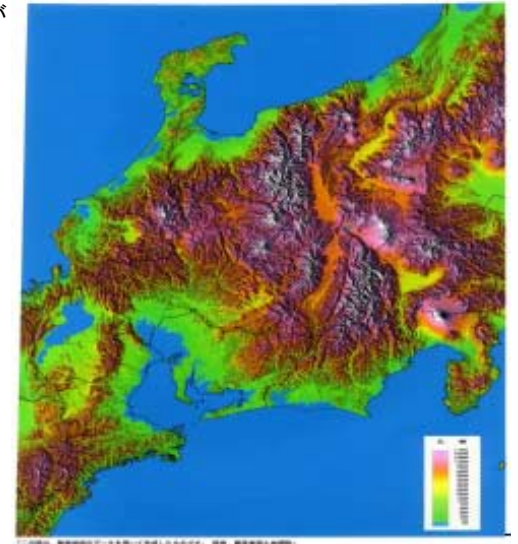
貯水池の水位低下(岩屋ダム、H13.5.29)



●地球温暖化

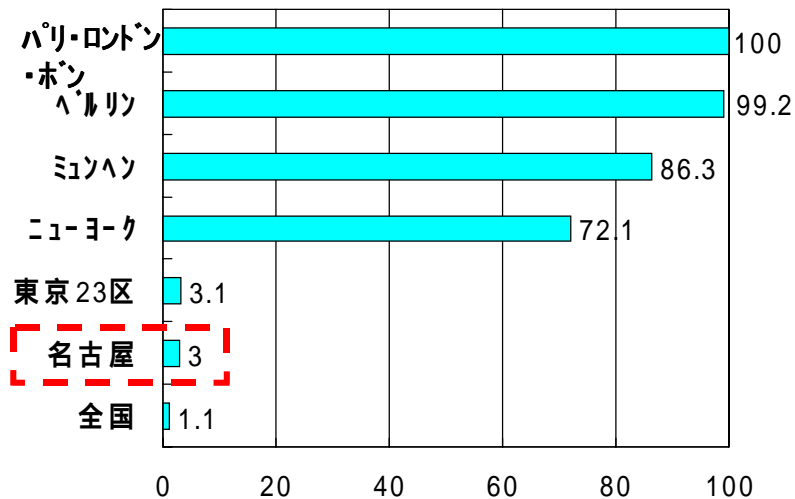
地球温暖化に伴う海面上昇により、多くの市街地が海面下に沈むおそれがあります。

中部地方海進(5m)陰影段彩図 縮尺1:1,200,000

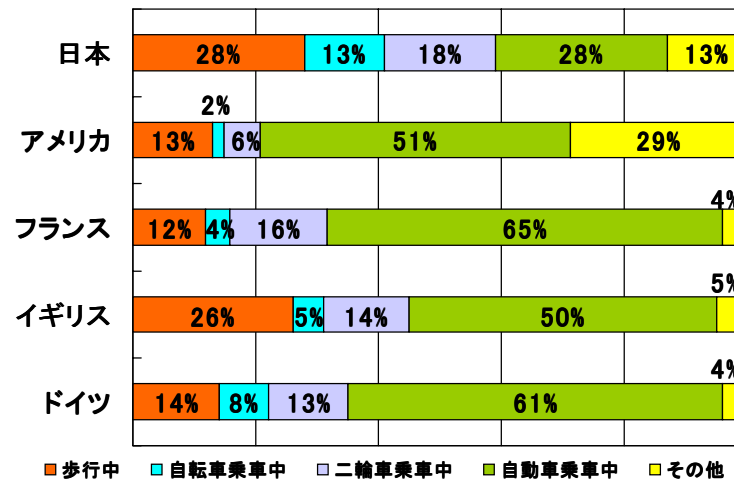


- ・日本は諸外国に比べ、道路空間の有効利用については遅れている。
- ・歩行中、自転車乗車中の死者数の割合は約4割を占め、国際的に見ても高い。
- ・海外の都市では環状道路の整備が進んでいる。
- ・欧米諸国は日本よりも高速道路の整備が進んでいたにもかかわらず1982年以降も着実に整備。

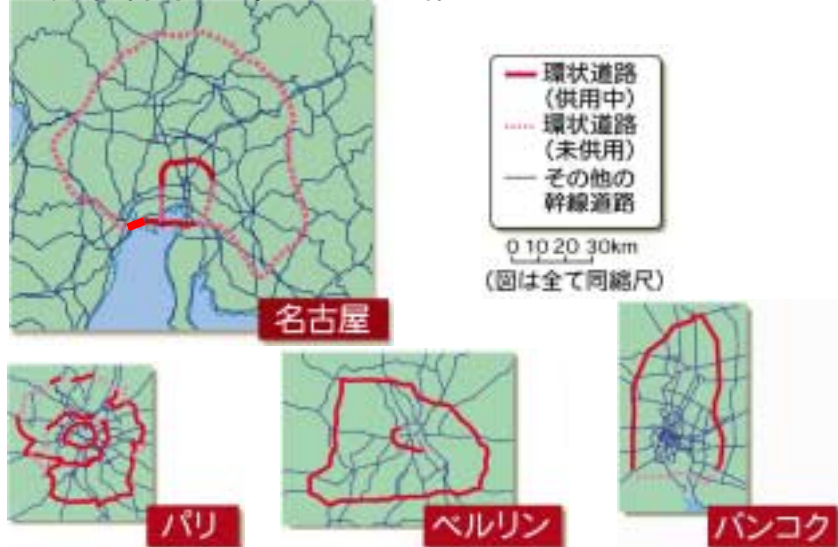
●電線地中化の取組(国際比較)



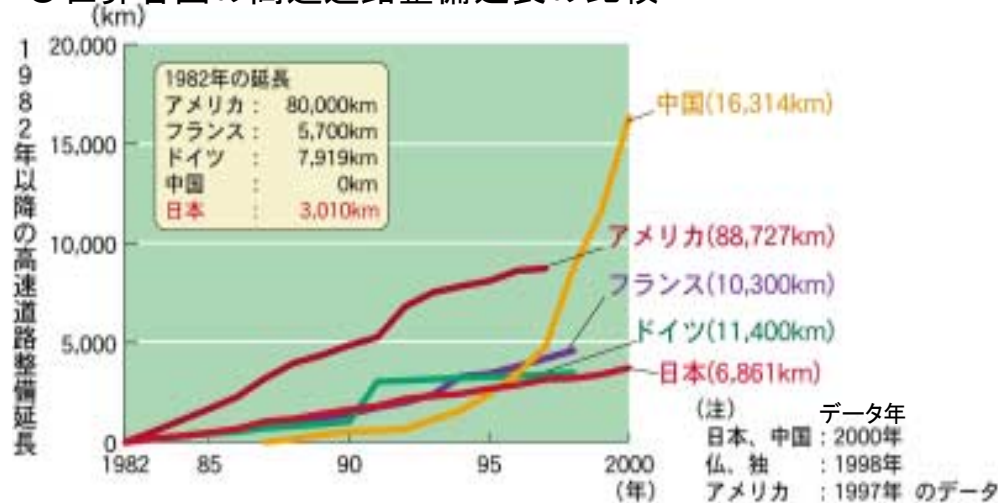
●国際的に見ても高い歩行者・自転車の交通事故発生率



●世界各都市の環状道路整備の状況

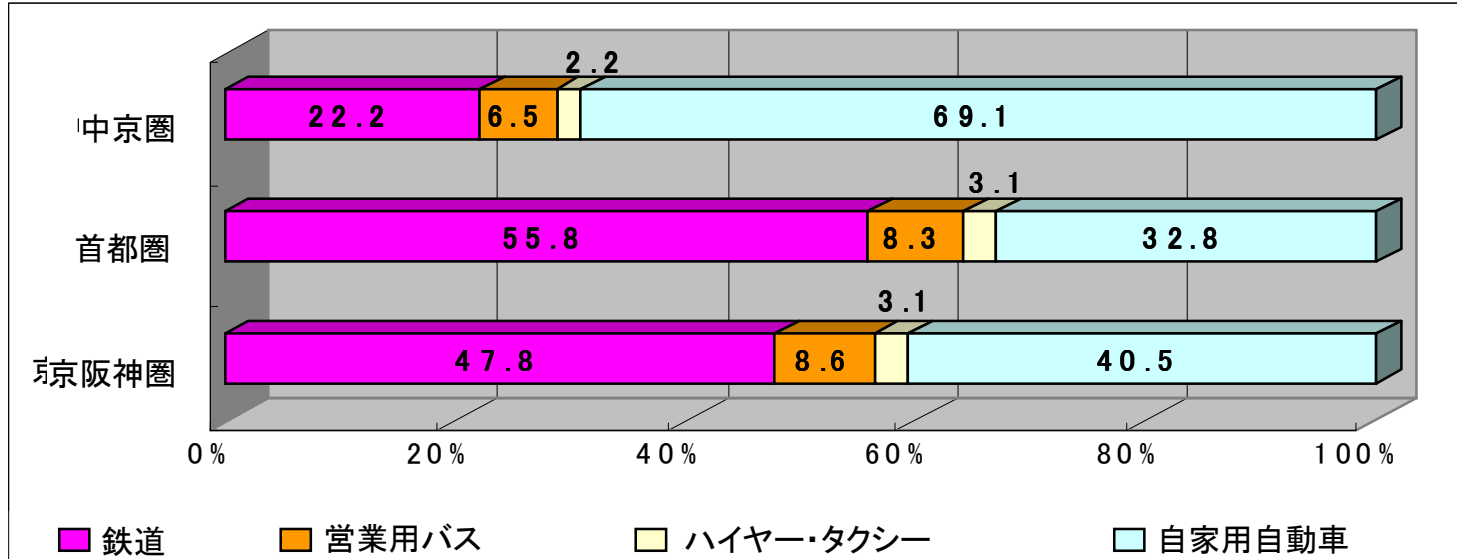


●世界各国の高速道路整備延長の比較



中京圏における公共交通機関の分担率は約3割
 首都圏の約7割、京阪神圏の約6割に対し、大幅に低い状況
 また、年々、自家用自動車の輸送分担率が増加する一方で、公共交通機関の分担率は減少傾向

●三大都市圏の輸送機関別分担率



●中京交通圏の交通機関別旅客輸送人員の推移

